

3) も も

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～6 月	○ 発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 ダイアジノン水和剤 3 4 モスピラン顆粒水溶剤	○ カワリコブアブラムシ、モモコフキアブラムシが主体である。 ○ ネクタリンでは品種により葉に葉害を生ずることがあるので注意する。
果実吸蛾類	8～9 月	○ 夜間捕殺を行う。 ○ 被害の激しい園では、白熱灯または黄色灯の電灯照明により防除する。	○ アケビコノハ、アカエグリバが主要種である。
カメムシ類	5～6 月	○ 飛来成虫を早朝捕殺する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 スミチオン水和剤 4 0 モスピラン顆粒水溶剤	○ クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワシロカイガラムシ	越冬期 (3 月)	○ 発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項 参照）	○ マシン油乳剤の散布は、虫をこすり落とした後に行えば効果が高い。
コスカシバ	休眠期 (10～3 月) 生育期 (7～9 月)	○ 幼虫を刺殺する。 ○ 休眠期間中に次の薬剤いずれかを枝幹に十分散布する。 ガットキラー乳剤 サッチューコート S トラサイド A 乳剤 ラビキラー乳剤 ○ 多発園では、スカシバコンを使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法 4」性フェロモン剤の項 参照）	○ 幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞を目あてに行う。
ナシヒメシ ンクイ	越冬期 (12～3 月) 5～9 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 ダイアジノン水和剤 3 4 フェニックスフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	○ 芯折れを見つけ次第除去する。
ハダニ類	4～8 月	○ 発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル	○ ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤、ピラニカ水和剤は眼に入らないように注意する。

モモシンクイガ（シンクイムシ類）	6～8 月	○ 被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5 日以上水漬する。被害果処理は必ず実施する。 ○ 産卵期に次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スミチオン水和剤 4 0 ダイアジノン水和剤 3 4 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ○ 多発園では袋掛けを実施する。	
モモノゴマダラノメイガ	越冬期 (12～3 月)	○ バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○ 冬期間園内の清掃を行う。	
モモハモグリガ	越冬期 (12～3 月) 5～8 月 (収穫後)	○ 越冬期間中に園内の清掃を行う。 ○ 発生期間中に落葉があれば、集めて焼却処分する。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 サムコルフロアブル 1 0 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル	○ 発生回数が多いので注意する。